



広報
之
Nº592
2005 9

自然保護の 水先案内人に

九重ふるさと自然学校(仮称)設立へ



タデ原湿原（長者原）手前は、藍紫色の小花を球状につけた「ヒゴタイ」。



みどりの基金は、（株）セブン・イレブン・ジャパンが創立20周年を記念し、平成5年に設立したもので、店頭での募金と同社本部からの寄付金などを活用し、日本各地の環境美化や保全活動を支援しています。平成15年度は店頭募金2億4千万、同社本部寄付金8千萬のほか繰越金など総額3億5千万円で運営、環境NPO支援278件を行ったほか、同基金による自然環境保護事業など38件の事業を行いました。同基金を活用した今回のような自然学校は初めて。

同基金では平成15年より自然学校の設置を

坂本町長は、「自然保護に弾みがついた。豊かな自然を後世に引き継ぐため、町をあげて協力していきたい」と話し、広瀬大分県知事も「九重町民のトキを呼び戻す活動などは自然保護の本質を突いたもの。こういった町に自然学校を作るのは大変有意義で、町にとても勇気付けられること。末永くここで自然との共生関係を作つてもらいたい」とエールを送りました。

事務所は飯田公民館前・旧時松酒店で、職員は同基金から2人が常駐。今後は自然学校設立に向けプログラムなどを作成。「ひとつひとつを確実に決めていきたい」と同基金。協定書調印には「みどりの基金」から秋山英敏理事、坂本和昭町長が臨み、立会人として広瀬勝貞大分県知事と佐藤美登町議会議長が同席、合わせて調印しました。

全国にコンビニエンスストアなどを展開する（株）セブン・イレブン・ジャパンが拠出する「セブン・イレブンみどりの基金」による自然学校（仮称）が九重町に出来ることになり、8月1日に、大分県庁で開校準備室設置協定を九重町との間に結びました。開校予定は平成19年春。

■開校準備室設置協定締結

①守るべき自然があるか、②地元と一緒に活動が出来、協力体制がしかれるかなどを基準に選定作業を進め、今年4月九重町を最終候補地としました。

同校では、建物などのハード整備ではなく、自然環境保護活動などのソフト事業を優先したいとしており、「九重町全体が教室・フィールド・キャンパス、そして住民全員が先生」。

また、「NPO法人九重トキゆめプロジェクト」や「九重の自然を守る会」などの自然保護団体との連携も深めていくとしており、そのひとつとして、今年度は、トキ子ども大使の派遣（8月26日から3泊4日で新潟県佐渡市へ小中学生8人を派遣）、日中トキ・シンポジウム（10月29日予定）といったトキ復活に向けた取り組みのほか、タデ原湿原（長者原）のラムサール条約登録が予定されていることから同条約登録の集い（11月19日予定）を各団体と共同で行うことになります。

このことについて、「トキゆめプロジェクト」副理事長の杉浦嘉雄日本文理大学助教授は「大使もシンポジウムも将来やつてみたいと思っていたこと。それが、みどりの基金と二人三脚を組むことで現実となつた。我々も大人と子どもとがトキの夢を共有し、その夢の輪を広げながらトキの住めるような環境づくりをしていきたい」と喜びの表情で語っていました。

■設立準備室開設

九重ふるさと自然学校（仮称）設立準備室の開設式が8月9日に現地で行なわれました。開設式は、旧時松酒店（中村上）を改造した事務所で関係者約40人による神事の後、星生ホテルで「開設記念の集い」を約60人が参加行ないました。「集い」の中で、坂本町

▲左から佐藤議長、坂本町長、広瀬知事、みどりの基金秋山理事、日本文理大 杉浦助教授

長は「町にとつても、ぴったりの自然学校。一緒になつて取り組んでいきたい」とあいさつをしました。



日中トキシンポジウム

トキを自然環境保護・保全のひとつのシンボルとしながら、さまざまな活動に取り組む人々を中国や日本国内から招き、シンポジウムを開きます。

平成17年10月29日(土)
13:00
九重文化センター

現在、国内には約1440の自然学校があると言われており、その多くは国や自治体が運営するもの。今回のような形の自然学校は珍しく、「職員が現地に赴き地域づくりと直接しながら活動していくケースもおそらく國內初。そういう意味で、これから自然学校のあり方を提示するものになる」と関係者。「これから自然保護の水先案内人になつてください」

そんなメッセージも開所式に届いていました。

準備室では平成19年春の開校に向け、プログラムの開発・試行を行うほか、地元関係団体と連携した活動をするとしており、NPO法人「トキゆめプロジェクト」代表の高橋裕二郎さんは「自然学校と志は一緒。自分たちもプログラム作成に協力していきたい」。また「九重グリーン・ツーリズム研究会」代表の安達道康さんは「自然学校は、教育を活動の中心にすえた私たちにとって追い風。足並みがそろうことも多いと思うので、一緒にやつていきたい」と話していました。

一度きりの人生を

自分らしく、悔いのないよう

第51回成人式

51回目となる成人式が8月15日に九重文化センターで行なわれました。

今年の新成人は144人で、そのうち111人が参加しました。式では新成人代表の岐部五郎さんに成人証書が渡された後、坂本町長があいさつ。「町では現在、自律に向けたまちづくりをしているが、みなさんも20歳を機に自律とともに町の未来を作っていく」と新成人を激励しました。

来賓祝辞の後、新成人を代表して梅木志穂さんが「いつまでも両親に心配かけることのないよう、一度きりの人生を自分らしく、悔いのないようにしていきたい」と謝辞を述べ、式は終わりました。

新成人の多くは学生。就職シーズンを間近に控えるも状況は厳しく、悩みの種になっている人も多い様子。県内の大学に通う男性は「選り好みは出来ない。行ける所に行くのが現状」と話していました。

夏の成人式は、昭和37（1962）年に始まつたもので、昭和40年代半ばには青年団が主体となつた、形式にとらわれない成人式「青年フェスティバル」といった取り組みも。屋外（長者原）で行なわれ、フォークダンスで新成人を祝つたこともありました（48年）。



東飯田



◀岐部五郎さん

野上



▲梅木志穂さん



飯田



南山田



■今年の新成人

| 地区 | 東飯田 | 野上 | 飯田 | 南山田 | 合計 |
|----|-----|----|----|-----|-----|
| 人数 | 40 | 37 | 23 | 44 | 144 |

これから、いろいろと世界が広がつていきそつな気がします



佐藤希望さん

仕事場のユニフォーム姿で

1985年
～86年

「成人式」を迎えた人が生まれた頃

当時の「広報ここえ」を見ると、よく出てくる話題が「国鉄宮原線」の跡地利用について。同線（恵良から町境の総延長15.6km）が廃止されたのが前年11月。代替バスの援助などほか、宝泉寺交通センターや隣保館（恵良交通センター）がこの年対策として建設されています。

玖珠共同葬祭場や野上小学校校舎も建設。町の一般会計当初予算は約38億円でした（現在は65億）。7月号には「町財政状態緊迫」という特集記事が組まれ、県内の町村では財政状況が最も悪いことが明らかにされています。町では、この翌年に行財政健全計画を作成。バブル好景気の影響もあり、数年後、財政健全化を達成。この頃のことを教訓に、現在では九重町の財政は県内でトップクラス。今の九重町の原点がこの年にあったとも言えます。このほかに「第2回九重むらおこしシンポジウム開催」といった記事も見かけられます。地域づくりもこの頃から活発化していたようです。

九重町の当時の人口は14,344人（4月現在）

1965年
～66年

「ふたつ目の成人式」を迎えた人が生まれた頃

今年、ふたつ目の成人式（20歳×2）を迎える人が生まれた頃、昭和40（1965）年度の広報も覗いてみました。この年、国勢調査が行なわれ、「ついに人口2万を割る」の記事が（今や1万人を割る危機が取りざたされるまでに）。過疎化の波がすでに押し寄せていました。それでも熱い時代でした。この年の「第5回九重町連合青年団定期大会」では「8時に開会された大会も、団員の真剣な討議により、時間も忘れ閉会したのは午前2時」。この年完成したのが、飯田公民館「恵良の文化会館にまさるとも劣らぬという近代建築」、南山田中学校体育館「体位向上の殿堂、銀傘輝く近代的施設」。町制10周年を記念して制作された「九重音頭」のお披露目。国道210号線は樺原～甘川水間が工事中でした。産業面を見ると「かんらん・トマト目標の達成にひとふんばつを」。特に「かんらん」は活発で、生産農家は505戸（100ha）。当時は、たばこ生産も盛んで、東飯田を中心に133戸が生産。15haの栽培面積でした。「あすをつくる町民運動」も展開されており、「農休日を利用して、地域ぐるみでフォークダンスなどをいたしましょう」。

当時の町の一般会計予算は約2億。



「第11回九重ふるさと祭り」

九重町の秋の代表的なイベント「九重ふるさと祭り」を開催します。収穫の秋にふさわしい九重町独自の味覚や特産品をはじめ、新鮮な農産物や佐世保からの海産物を多数用意しています。郷土芸能をはじめとした各種催し物も盛りだくさん。多数の方のご来場を心よりお待ちしております。ぜひ、この機会に、お誘い合わせのうえ、お立ち寄り下さい。

期 日：10月22日（土）午前10：00～

10月23日（日）午前9：30～

場 所：九重活きいきランド一帯（九重町役場周辺）

駐車場：JA玖珠九重支店臨時駐車場に駐車をお願いします。

（当日は駐車場と会場を往復するシャトルバスを臨時運行しますので、そちらをご利用ください。）

● 多目的グラウンド（ステージ上）での催し物

- ・郷土芸能、文化振興会議芸能
- ・佐世保芸能
- ・バンド演奏
- ・ものまねショー

・こどもカラオケのど自慢大会

・歌謡ショー

● 多目的グラウンドでの催し物

- ・地元でとれた新鮮な農産物や特産品及び佐世保市からの海産物及び三河内焼陶器の販売及び地元豊後牛の焼肉コーナーなどの各種バザーコーナー
- ・献血コーナー
- ・ふれあい動物園

● その他の催し物

- ・農産物及び加工品等展示品評会
- ・木材活用アイデア作品コンテスト
- ・親子木工教室
- ・絵画や書道、生け花や彫刻等の文化作品展示
- ・写真展、絵画展、菊花展、花と器展、伝統工芸展
- ・少年野球などの各種スポーツ大会
- ・フリーマーケット
- ・ヘリコプター遊覧飛行（10/23のみ、有料）
- ・パソコン無料体験コーナー

内容については変更になることもあります。



平成17年10月1日(土)

毎下記が必ず記入して下さい。



1億?千?百?十?万?千?百?十?人
「？」を埋めるのは、
この国に暮らす
私たち一人一人です。

~10月1日 国勢調査

あなたの調査票には
日本の大切な未来がつまっています。

10月1日、国勢調査を全国いっせいに行います。国勢調査は、日本に住んでいるすべての人を対象とした大規模な統計調査です。調査結果は、社会福祉、環境整備、雇用対策、経済政策、交通安全など、みんなが住みよいまちづくりのための基礎資料となります。

調査する項目は、男女の別、出生の年月、就業状態、運動・通学地、住居の種類などです。調査内容が、他にもれたり、統計以外の目的に使われることは絶対にありません。国勢調査員が調査票を持ってつかがります。未だために、10月1日のあなたを記入してください。

九重町役場企画調整課（☎ 76-3807）



宇佐さん宅



佐藤さん宅

農業で 人間らしく

新規就農希望者や中核農家後継者が先進農家を訪れる「農家訪問バスツアー」が8月16日に郡内一円で行なわれました。玖珠九重地方振興局農業振興普及センターが主催したもので、参加したのは高校生から57歳まで10人。

ツアーではまず宇佐憲一さん宅（尾本）を訪問。宇佐さんは肉用牛（成牛55頭・子牛23頭）を中心とした複合経営。宇佐さんは1日の作業の流れや年間スケジュールを紹介した後、「条件がいいところに畜舎があるわけではなく、そのことで逆にがんばれる面がある。大規模な設備投資を最初から行なったり、急にしたりするのではなく、たとえ借金をしたとしても無理なく返済できる範囲での経営をするべき」と堅実経営の大切さを説明、「がんばれば、サラリーマン以上の年収を得ることが出来る」と話していました。

次に出荷最盛期を迎えたトマトハウスを訪ね佐藤吉見さん宅（茅原小野）へ。佐藤さんは、九重町でのトマトの歴史やJAトマト部会の活動内容を説明、妻の恵美子さんは「農業は心の豊かさを伝えることが出来るし、人間らしい生活が送れる職業。自分たちの取り組み次第で、がんばったら、がんばった分だけ植物が喜びを与えてくれる」と農業の魅力を紹介。せっかくやるなら楽しく出来るようにすると良い、とアドバイスをしていました。佐藤さん宅では42アール（ハウス19棟）のトマト作りをしていますが、今年については前半が順調だったものの、その後の日照不足などで「成り疲れ」（茎の下部の方の成長が進みすぎて上部の実の成長が妨げられる現象）を起こし、「収穫はいまひとつ」とのこと。

それぞれの農家で、栽培や出荷の方法などを参加者は熱心に質問。その中の一人は「経営のやり方で通じるものがあり、とても参考になった」と話していました。また両農家とも後継者が就農したばかりで、参加者と情報交換する場面も見られました。

ツアー参加者はその後玖珠町に移動し畜産農家を訪問。最後に「農業の担い手の状況」や「就農支援」に関する説明を受けました。

大分県内のここ5年の新規就農者は年間70人前後でほぼ横ばい。新規就農者は35歳未満が68%と多く、ついで50歳以上の15%となっています。

全国農業協同組合中央会（JA全中）主催の第1回地域水田農業ビジョン大賞選考会で、「玖珠九重地域水田農業推進協議会」が優秀賞を受賞しました。

同賞は特色ある産地作りや集落営農などの将来ビジョンを策定し、優れた事例のノウハウを全国に広げることを目的に制定されたもので、全国から18事例の応募がありました。

今回受賞した「玖珠九重地域水田農業推進協議会」は、郡内のJAをはじめとした農業関係団体より構成され、平成15年7月に発足。その後、ビジョン作りを開始。「どうしたら日本一美味しい米が出来るか」や「農地の有効利用」など、お互いが納得いくまで議論。32回の会議を重ね、平成16年1月に完成しました。

ビジョンは「米に変わる品目としての白ねぎの重点化」、「畜産経営の規模拡大のための飼料増産」、「集落営農の育成」をポイントにおき「売れる米作り」などを盛り込みながら作成。その結果、予想を上回る飼料団地の形成や白ねぎ生産の着実な伸び、集落営農への機運の高まりなどが見られました。

今回の受賞について、同協議会会長の中村高利さん（JA玖珠九重組合長・写真）は、「営農指導に携わってきた人と農家の努力が今回の受賞につながった。ひとつ取り組むと、いろいろな課題が出てくるのが常だが、より良いものが生まれるには動きがあることが大事。今後も地域の特性を生かし、動きのある農業を展開し、農家所得の向上を図っていきたい」と話していました。

同協議会では、目標年度の18年度に向けビジョンの推進とともに、点検と見直しもしていきたいとしています。

郡内の水田面積は約3100ヘクタールで、そのうち米が約60%、転作作物が約40%。九重町内の昨年度の米作付面積は800ヘクタールで、転作田での白ねぎ栽培面積は7ヘクタール、飼料作物は207ヘクタールとなっています。



▼今年1月14日に行われた
水田農業振興大会



動きのある 農業を



心憎い演出で充実の一日

農村体験交流会 in 玖珠九重「Very・Berry・Berry」が8月21日に町内で行なわれました。田舎の暮らしや農業の良さを知つてもらおうと、玖珠郡農村青年連絡協議会（鷺頭将治会長）が独身女性に呼びかけたもので、1回目の6月13日は「花植え」や「田植え」を体験。2回目となる今回は女性15人を含む約40人が参加、「ブルーベリー摘み」やそれを使った「ジャム作り」などを行ないました。

ブルーベリー摘みは串野の梅木さんの畑（40アール、千本）で実施。来年度から本格的な収穫に入り、2年後からは100%稼動する予定で、実がなっている木はまだ少なかったものの、参加者は協力して収穫。ジャム作りに必要な分を確保しました。初めてブルーベリーの木を見る人も多く、「もっと高い木と思っていた」という声も。参加女性の中には、これから農業にチャレンジするという女性もあり、「自分ががんばった分、かえってくこと。そして自分の名前を看板にして仕事が出来ることが魅力」と話していました。

農村青年の作ったコメやナシなどを商品にしたbingoゲームといった心憎い演出も準備。終了予定を1時間もオーバーするなど大盛り上がりの1日だったようです。また参加女性には、ブルーベリーの苗木がお土産として手渡されました。

交流の芽もそろそろ出始めた？

「Very・Berry・Berry」は10月1・2日に第3回が予定されています。

農業、あなたの提案募ります ～夢未来創造事業

大分県では、農林水産業の産地規模の拡大や新たな產品づくりに結びつく新しい発想の事業提案を広く募集しています。

この事業は、個人や集団等の自由な発想による農林水産業の生産活動等に関する具体的な提案を受け、あと一歩の事業展開を支援することで、提案者の夢の実現を図るとともに地域の未来を切り拓こうとするものです。

専門家等による審査を経て、承認されたものについては、提案された事業展開に必要な調査研究、施設等の整備について必要な経費を助成するほか、実現に向けた手法開発を支援するためのアドバイザー費用等にも支援することにしております。

詳細については、玖珠九重地方振興局農業振興普及センター（☎ 72-0892）へお問い合わせ願います。

昨年販売して好評だったブルーベリーウィンが今年も登場します。

九重町では、西日本一のブルーベリー産地作りとその加工品開発を進めていますが、ワインもそのひとつ。昨年、町制施行50周年記念として、ワイン（2,000本）と発泡性ワイン（2,500本）を売り出したところ売り切れ。その後、在庫の問い合わせも入っており、「甘くて飲みやすい」など味のほうでも好評でした。

今年は、特に好評だった「ワイン」を4,000本準備。10月22・23日の「ふるさと祭り」で売り出しを始めます。価格は1,100円（500ml）。

町内のブルーベリーは今年から本格的な収穫が始まり、出来高は2トン弱。栽培面積は13.3haで、さらに面積を増やしていく予定です。

ブルーベリーウィンの取扱店などの問い合わせは役場農林課（☎ 76-3804）まで。

今年も酔わせます



◀ 昨年のふるさと祭りから

ブルーベリー 新植希望者募集！



現在、町内のブルーベリー栽培面積は、13.3ha。栽培人数は、93人。九重ブルーベリー研究会を中心に、栽培から消費ルートの開拓まで、活発な活動を行っています。ブルーベリーは、眼精疲労の回復効果があること、食物繊維が多く含まれること、血栓の抑制が図られられることなど様々な機能性が注目されている果実です。

また、比較的栽培・管理しやすい果実で、春には釣り鐘状の白い花をつけ、秋には鮮やかな紅葉が見られるなど、四季を通じての景観も楽しめます。

植付を希望される方は、役場農林課（☎ 76-3804）まで。

“教育のゆくえ”をめぐり厳しい議論始まる 小・中学校再編問題



学校再編に向けた協議が始まりました。

昭和45年度に2867人あった町内の小中学校児童生徒数は、今年度は916人まで減少。今後もこの傾向は続き、平成23年度には707人になることが見込まれています。現在の小学校6校、中学校4校で推移すると、同年には地区ごとに割ると、中学校では全校49人の超小規模校となることが予測されています。

このため、町では「小中学校の適正規模並びに適正配置」について、議論するため、「九重町学校再編検討委員会」を設置。7月26日の第1回委員会で、町長、教育委員会連名で、関係機関からの指名委員9人と公募委員3人に對し委嘱状が渡された後、会長に藤澤昌由さん、副会長に佐藤テイ子さんが選ばれました。藤澤さんは「再編は避けて通れない問題。教育環境はどうあればよいかを焦点に、これから想定される世情の激動にも流されないような、しっかりした指針を作っていくたい」と抱負を語りました。

同日出された「児童生徒数の減少に対応した、小中学校の適正規模ならびに適正配置について」の諮問を受け、同委員会では来年2月の答申に向け、協議を重ねていきます。

九重町では第2次総合計画（平成5年）で初めて中学校統廃合について取り上げられ、平成9年度には委員22人からなるこの問題についての審議会を設置し、同会は「中学校統合の必要なし」の答申。町ではこの答申を尊重する形で統合を見送ったものの、その後も児童生徒数の減少は歯止めがからず、第3次総合計画（平成14年）では「統合を視野に入れる」。その後の行政改革実施計画でも「視野に入れながら」という表現が用いられ続けたものの、今回の検討委員会からは「統合を前提に」にと一步踏み込んだ印象。

このことについて、第1回委員会で佐藤教育長は「どうすれば子どもたちのためになるのかを最優先して考えたい」。坂本町長も「学校施設も老朽化しており、コンピュータの整備など、これから社会に対応した教育環境の整備が難しくなってくる。将来を担う子どもにとって今までよいのかというのを含め検討してもらいたい」。しかし、委員からは「最初から統合ありきの印象が強く、議論ができない。まずは教育面でどうすべきなのかを議論をすべき」といった委員会の位置づけをめぐり議論が集中。大事な問題だけに解決していくのは、容易ではないことが伺えました。

9月のハート降る♥こここのえ

イモの苗さし
人権キッズクラブ 梶原千恵

人権キッズクラブは、年間を通じて楽しい活動を計画しています。工作やゲーム大会、サツマイモの栽培お泊り会と盛りだくさんです。季節に応じた活動で、子どもたち同士仲良くつながっていけることを願っています。今年のことでした。その月の活動はイモの苗さしです。まずは

4年前、数人の大人たちの思いから始まったこの活動も、現在では多くの地域の方から支えられて成り立っています。その人権キッズクラブのスタッフの方より心温まる話が届きましたので、紹介します。

4年前、数人の大人たちの思いから始まったこの活動も、現在では多くの地域の方から支えられて成り立っています。その人権キッズクラブのスタッフの方より心温まる話が届きましたので、紹介します。

子どもたちの笑顔と喜んで帰る後ろ姿が何よりの報酬と感じているボランティア活動です。

最近、人権キッズクラブには東飯田地区以外からの参加者も増えてきています。一度、のぞいてみてはいかがでしょうか。詳細は隣保館まで。

「人権キッズクラブ」という名前を聞いたことがありますか？（本来は「キッズクラブ」ですが、言いやすいように、いつの間にか通称「キッズクラブ」）。これは東飯田地区の小学生を対象とした子ども会活動です。ことの起こりは今から4年前、子育てや人権にふれる活動を通じて、つながった保護者と教職員で始めた活動です。毎月1回、第4土曜日に九重町隣保館を会場に仲間作りをメインに活動しています。

人権キッズクラブを始めた丸4年。活動するたびにたくさんの人から支えられてもらっている気がします。

田地区以外からの参加者も増えてきているそつです。「仲間作りの輪が広がっていくことはなんだかうれしい気がします」とメンバーの一人は話していました。参加は自由です。一度、のぞいてみてはいかがでしょうか。詳細は隣保館まで。

連絡先 佐藤明郎
(☎) 076-125526

郵便の場合は次のところへ。

〒879-14895
九重町役場企画調整課広報係

人権キッズクラブを
ご存知ですか？

今年も借用する煙を探していたところ、恵良に住むYさんが手ごろな烟を見つけてくれ、貸していただきました。Yさんは「子どもたちのためになるのなり」といろいろ手を尽しててくれたのです。

畑が決まったので、スタッフで畑を耕しにいってみると、すでに草は刈られ、畑は起こされています。数日前よりこのYさんが下準備をしてくれていたのでした。場所をお世話をしてくれた上に、「みなさん方は忙しいだろうから、少しずつ時間を見つけてしました」と話してくださり、頭が下がる思いでした。イモの苗さしの日、畑には子どもたちの楽しそうな姿と、それをここにこ笑つて見ているYさんの姿がありました。

友情の翼広がる

□～カッコウの翼



国際的な視野を広めることなどを目的に、中学生を対象とし、韓国的一般家庭へのホームステイを行なう「カッコウの翼」が今年も8月2日から3泊4日の日程で行なわれました。

参加したのは町内の中学校1年生から3年生までの8人。一行は、ソウル近郊の富川（プチョン）市を訪れ、歓迎式に臨んだ後、地元の農家に分散してホームステイをしたほか、「統一展望台」などを見学。5日夜に帰国しました。出迎えに訪れた家族は「少しあたくましくなったかな」と、「異文化の中に一人」の経験をした子どもの姿を早く見たい様子。到着後の解団式で、随行の宮柱若子さんは「返事がよく出来るようになった」と子どもたちの成長振りを報告しました。

参加者の家庭は、来年1月4日から韓国・富川市の中学生を、同じく3泊4日で、受け入れる予定。参加者は、事前に簡単な韓国語や歌、文化などを学習し訪問しましたが、今後も学習を続けさらに交流を深めたいとしています。

「カッコウの翼」は14年前から続けており、これまでに約200人の中学生が参加しています。

親愛なる エジソンへ

エジソン、元気にしてますか。新しい生活はどうですか。エジソンのことだから、きっと毎日一生懸命がんばっているんでしょうね。

ブラジルに帰国するときには「FALAMANSA」のCDをプレゼントしてくれて本当にありがとうございます。私がこの音楽を好きだと言っていたのをエジソンは覚えてくれていたんだね。

エジソンはずっと、そういう気配りがよく出来る子だったね。我が家にいたときは何か質問したいことがあると、すぐに電子辞書を片手に私たちにペッタリ張り付いていたので、よく私から「ウォーキングディクショナリーが来た！」と冷やかされていたね（笑）。

エジソンがちょうどブラジルへ向かう飛行機に乗っている頃に、私はこのCDを郵便配達の人から受け取りました。そしてこの音楽を聴きながら、空を見てエジソンを見送っていました。そうしたら、エジソンのこぼれるような笑顔を思い出して、涙がポロポロポロ落ちてきてしばらく止まりませんでした。（変だね。空港に見送りに行かなかつたのに、やっぱり泣いたね。）

ホセ（留学生仲間 編集部注）が自分も卒業論文のための実験で忙しいのに、エジソンがいなくなつてがっかりしている私を心配して、慣れない日本語入力で励ましのメールを送つてくれました。稻刈りのときはエジソンの分もがんばるんだと言って張り切っています。わが家の留学生ファミリーの素敵なおにいちゃんですね。

思い出してみれば、エジソンもホセも我が家に初めて来たのはクリスマスイブの夜だったね。あなた達はきっと神様からの贈り物だったでしょう。

先月号で、ブラジルから留学し九重町へホームステイをしていたエジソン君の体験記を掲載しましたが、受け入れ家庭のM.Sさんから「エジソン君に宛てた手紙」を提供いただきました。「一場面を知ってもらうことで、国際交流の輪が広がれば」と公開の承諾をいただきましたので、紹介します。

お父さんは私みたいにあしゃべりじゃないからあまり言わないけど、時々エジソンのことはどうしているだろうと気にしているみたいです。ひかるも「今度、お兄ちゃんはいつくるの？」とたずねたりします。

毎日一緒にいたわけじゃないのに、エジソンが日本にいないというだけで、こんなにさびしくなるなんて・・・お母さん、やっぱりおかしいね。

人は別れるときに、お互いの会ったことの意味を知るのだろうと思います。

エジソンから教えてもらいました。

エジソンは一体どんな小学校の先生になっているのかな？ はじめだから一生懸命になりすぎていませんか。人はそれぞれに個性があり、ものごとの理解の仕方もいろいろだから、子どもには厳しくしそうないですね。

それから日本語の勉強も続けてがんばってくださいね。エジソンは実用会話としてだけではなく、学問としての日本語にかかるろうとしているのですから、スラングでない美しい日本語を頭の中だけでなく、心と体で理解する努力を忘れないでください。

私はあなたが学問だけでなく、人間としてもどんなに優秀であるかをよく知っています。その才能をしっかりと磨いて、明日に向かって輝いてください。未来はいつもあなたのために微笑みかけているのですから。

あなたののような素敵な外国の青年が私たちの日本語を勉強していることを、心から誇りに思います。

私たちの自慢の息子エジソンへ

泥だらけで爽快！



今年で11回目となる「書曲どろんこ祭り」が7月24日に現地で行なわれました。このお祭りは同地区の地域づくりのために始まつたもので、当日々約100人の子どもが参加。大人も一緒になりながら、綱引きやリレー、うなぎのつかみ取りなどを楽しみました。



▲参加者のリュックには、大会参加記念のバッチがたくさん。

爽快！高原ウォーキング



「夢ふる星ふる九州の屋根ウオーカー」が8月14日に飯田高原で行われました。大分県ウォーキング協会（荻野彦会長、480人）が、県内旧58市町村を毎月1市町村ずつ5年間かけて回る「大分県一村一ウォーキング」として行なわれたもので、九重町は41番目。荻野会長は、「被害を受けた地区をのんきに歩いていいものか最初は考えていたが、歩きなが

ら激励したい気持ちになつてきました」と、開会前に7月10日未明に町内を襲った集中豪雨被害に対する義援金を募集、開会行事で佐藤教育長へ手渡しました。集中豪雨被害のためコース変更を余儀なくされたものの、当日々県内外より小学生から81歳まで約200人が参加。長者原をスタート・ゴールに10キロと15キロの2コースに分かれ歩き、完走者には、九重特産の生シイタケを進呈し、喜ばれていました。この秋ラムサール条約に登録が予定されている長者原タデ原もコースに盛り込まれており、参加者から「とても気持ち良い」といった声が聞かれるとともに、景色の美しさに「カメラを持つてくればよかつた」と話す人もいました。

「一村一ウォーカー」は平成14年から開始。今後、姫島村や荻野町で行なうことになつております。平成19年の別府市で旧全市町村完歩となる予定です。



▲九重町から参加の藤野恵香さん、梅木瑳雅子さん、藤野皓爾さん（左から）

集中豪雨被害に対する義援金の報告

7月10日未明の集中豪雨で町内の道路は大きな被害を受けましたが、県道の復旧については次のとおりです。ただし仮復旧したとしても、大雨などにより川の水位が上がった場合は緊急に通行止めとなることがあります。

県道飯田高原中村線

①界橋から九酔谷

大型土のう等により1車線の通行を確保する工事をまず行ないます。ただし、現地は被災箇所が点在し、工事に使用できる道路がないため上流と下流から工事を進めざるを得ない状況であり、危険箇所も多く、工事が非常に難航しています。猪牟田・栗原への通行を早期に確保するため、界橋をはさんだ工区の仮復旧工事を9月中旬にまず終了し、平成17年12月末までの全線仮復旧を目指しています。本復旧については工事規模が大きくなるため年内の工事着手から1年程度の期間が必要になると見込まれています。

②大岳工区

大規模な土石流により道路を含む広範囲で被災しており、砂防事業を進めながらの復旧となります。仮復旧は平成17年12月末、本復旧については計画を策定中です。

③泉工区

平成17年10月末を目標に本復旧工事を進めています。

田野宝泉寺停車場線

①豊後渡橋

仮橋工事がすでに完成し、現在は2トン未満の車両の通行が可能です。

（参考：8月25日現在の玖珠土木事務所資料）



家電リサイクル法で処分費用がかかるもの（テレビ・エアコン・冷蔵庫）は経費を徴収した上で、電気店持込をしています。



これで八方、丸く収まる

地域で粗大ごみ収集

ごみの不法投棄はどこの市町村でも頭の痛い問題。この問題を地域で解決しようとする取り組みが川西3（工藤正則区長）で続けられています。

同地区では、10年ほど前から、毎年8月第一土曜に全家庭を対象に粗大ごみの収集を行い、一括して清掃センター（玖珠町岩室）に運び込んでいます。こうすることで、各家庭で清掃センターに行く手間が省かれ、一括して運び込むことで経費も節約できるようになり、その結果「ここでは不法投棄は見当たらない」と区長の工藤さん。特に交通手段を持たない高齢者にとっては大助かり。体が不自由な人に対しては、ごみを運び出す手伝いもするそうです。

今年も8月6日に行なわれ、朝6時に同地区的15人が収集を開始。集められたごみは分解の上、分別。種類ごとに2トントラック1台、1トントラック1台、そして軽トラック2台で清掃センターに持ち込みました。

どこの家庭でも処分したい粗大ごみはあるはず。不法投棄は厳禁。しかし、清掃センターまで持ち込むのは面倒と考えている人が多いようです。川西3の取り組みは、大変参考になるのでは。

「この取り組みを、ぜひほかの地区にも広めて、環境を守ってほしい」と前出の工藤さんは話していました。

環境美化に対する関心も高まっており、同地区の婦人会では清掃センター見学の話も出てきているそうです。

業務以外でも地域に密着

玖珠郡信用組合（瀧石満組合長）の道路清掃作業が8月20日の朝、東飯田地区で行なわれました。

全国の信用組合が加入する全国信用組合連合会の社会貢献事業の一環として行なわれたもので、同事業の代表的な取り組みが「愛の献血運動」。「道路清掃」は、玖珠郡信用組合独自の取り組みで、当日は、そろいの法被に身を包んだ職員19人が参加。空き缶拾いやカーブミラー磨きなどを約2時間行ないました。

同組合では「道路清掃」を年に2、3回実施するほか、「少年野球大会」も主催。業務以外でも地域に密着した活動を展開しています。



献血についてのお知らせ

近年、献血可能人口の減少により、年間を通じて輸血用血液を安定的に確保することが大変厳しい状況にあります。九重ライオンズクラブのご協力をいただき献血を実施いたしますので、多くの方々のご協力を
お願いします。

日 時 平成17年10月22日（土）
10：00～16：00
場 所 第11回九重ふるさと祭り会場
(多目的グラウンド内)
問い合わせ ふれあい生活課保健予防係
☎ 76-3838
献血・献眼の登録にもご協力をお願いします。

献血の4分の1は
ライオンズクラブが
集めています。

忘れられよ
うとする
歴史を
掘り起こす

謎の仏像さがし

倒木の奇跡

2度目に行つてみて驚いた。昨年秋の台風で近くの松の大木が倒れ、石仏の眼前に横たわっている。10センチで危うく直撃をかわしている。こんな奇跡も世の中にあるものだと感じ入った。

石仏の正体は何様か

平石の母岩に、半肉彫りに掘り出され、総高58センチ、幅35センチ、顔の回りに円形の光背を作る。丸顔の左肩より衣紋が流れ、両手を正面にして、両掌で宝珠を抱く。両足を組んだ座像がレンゲ座に乗る。朱の彩色が衣紋とレンゲ座に残る。帽子はブクブクした防寒様のものを被る。目は半眼切れ長で穏やかな美顔。

飯田にある他の大日如来は、馬頭観音（→NOTE）とセットで3ヵ所あるが、いずれも帽子を被っているので、これも大日如来であろうか。

仏像の謎探し解決

その後、内野家の後継者を、熱心に探してくれたのは、縁者の一人日野夕力工さんで、「奥双石の一番奥の内野吉麿さん」と教えて下さった。

内野家山林と仏像

明治25年に創業した「株式会社大分牧場」は明治政府が奨励した国内未開拓地の開墾事業で、熊本県出身の佐藤又八氏を中心にして、11人の出資の畜産会社であり、国有の原野山林1千5百町歩を借り受け、畜産事業の傍ら、60町歩の開墾を完成して、入植者30戸の吉部

この山林が九州電力に売却される以前、東京の前田牧場持分一口、135町6反7畝を私の祖父たち親戚4人で上京し、買受けに成功している。大正3年に2分の1、大正7年に2分の1。価格は合計1320円であった。内野家の面積が約半分であるが、場所がよいので高く、75800円以上かかる。思える。当時銀行でこれだけの資金を動かせる信用はいたしたもので、内野氏は並みの人ではなかつたであろう。

● 小野喜美夫さん（九重飯田ふるさと資料館）から寄稿いただきました

NOTE

馬頭観音とは、馬の保護神として、特に江戸時代に広く進行された観音。



場所

飯田高原千町無田、朝日神社の前を山手に、500メートル上つたところに、木元氏の別荘があり、その上手の路傍に一体の石仏がある。昨年、さる婦人より現地に案内され、この石仏の正体を調べてくれるよう話があつた。草に埋もれて今まで見落としていたので、調査することになった。白鳥神社御守護水という水路の側である。

銘文から造立者を探る

石仏の右余白に「明治四十年未だ」とあるが、いざれも帽子を被っているので、これも大日如来であろうか。

後記

この山林が九州電力に売却される以前、東京の前田牧場持分一口、135町6反7畝を私の祖父たち親戚4人で上京し、買受けに成功している。大正3年に2分の1、大正7年に2分の1。価格は合計1320円であった。内野家の面積が約半分であるが、場所がよいので高く、75800円以上かかる。思える。当時銀行でこれだけの資金を動かせる信用はいたしたもので、内野氏は並みの人ではなかつたであろう。

吉麿氏いわく、「私の父が勘治、祖父が寿市で三代前の人ですが、明治40年当時、千町無田の奥に77

くなる時代である。

石仏のある場所は、かつて硫黄を馬の背で湯平に搬出する駄道であり、長く利用した雪深越しの道である。実は明治38年に、年の神より小田の池経由で川西に馬車道が開通し、駄道の使命も終わり、火切ガ野の大分牧場も廃業してい、馬頭観音は考えにくい。さてれば道案内の大日如来であろうか。

土地の住民にとって、正体不明では気持ちもすつきりせず、何様かわかれわかるほうがよく、石仏と気持ちが通り合い、拌まれ親しまれる関係が望ましい。このまでは造立の意志が生かされていないと考えた。

某・・・とあり、此の地に隠棲した云々」とあつたような気がするが確証はない。角のお堂は文殊様で、隣家の屋号が「大友家」であることも謎である。神仏に昔からご縁は深かったようだ。

大略このようなお話を聞くことなどが出来た。

これまで内野家と仏像と山林がつながり、謎が解ける気がしてきた。

これが内野家と仏像と山林がつながり、謎が解ける気がしてきた。

つけたのが内野氏であろう。

伝説の朝日長者の「鏡石」（左ページ参照）も、千町無田開墾者が入村したのも奥双石ルートであり、この方面に内野氏は地縁・人縁があり、77町7反余りの買受けに成功したらしい。しかし、国から払い下げた広大な土地の利用が出来ず、大正10年ごろ一括して九州電力に売却され、内野氏分も売却されたという。山林買い受け当時、山の守護神なり、旅人の道案内なり、もろもろの情念を込めて入り口に安置したものと理解し、謎解きの旅を終わりとする。関係者の方々にお世話をなつたことにお礼を申し上げる。

忘れられよ
うとする
歴史を
掘り起こす

勅使塚



善王寺（北恵良の一部）に勅使塚と呼ばれるものがあります。同地区は東飯田公民館のある通りを脇に入り、少し登ったところ。この位置関係が勅使塚の秘密です。今から84年前の大正10年、玖珠地方に未曾有の大水害が襲いました。その直後、大正天皇の勅使（天皇の意思を伝えるための特使）、海江田侍従が視察に訪れます。そのときに玖珠盆地を一望したのが現在の善王寺。それを記念し、この地を江上台と命名し、勅使塚が建てられました。

勅使塚は直径30センチ、高さ1.5メートルの石製。現在では、竹林等にさえぎられ、玖珠盆地を見るることは出来ませんが昭和30年頃までは、公園として地元住民から親しまれ、盆踊りなども行なわれていたそうです。また、戦時中から戦後にかけてはサイレンの発信場所としても機能していました。

この勅使塚も月日の流れとともに草に覆われ近づくのも容易であります。先日、恵良の青年層の人たちが清掃し、行きやすくなりました。
「ぜひ一度行ってみませんか」と地元関係者。

伝説の大石 『鏡石』を探索

●伊東忠春さん（野上
景友会・会長）から
寄稿いただきました

忘れられよ
うとする
歴史を
掘り起こす

大竹海兵团、
潜水学校在籍、
大竹港への引揚者
の方いませんか？

ふるさとの山を愛し自然を愛しながら、まちづくりに取り組む野上の「景友会」（12人）のメンバーが結成40周年事業として昨年は青野山・山頂を開拓し、今年は野上中巣の山頂を開拓し、奥にある伝説の大石『鏡石』を探索しました。

この『鏡石』は、「昔、千町無田の朝日長者の娘が内匠長者（玖珠町森）の息子と結婚した。娘が里帰りの途中、大きな鏡餅をうせ（背負う）ていたコツチ（オス）牛が転倒し鏡餅が落ちてしまつた。あまりにも大

きかったので、どうすることも出来ずそのまま放置していたものが鏡石」（小冊子・このえ町アップストリームより）と言いたい伝えられているものです。

その『鏡石』を探し出し、まわりの雑木、雑草を除去し、石をきれいにして美しい姿にしました。お神酒をお供えし、案内板を立てて再び平成の世にのみがえらせました。

場所は中巣の奥「かぎばる」から寺床に抜ける林道から見えるところにあります（車で行けます）。

みなさんも訪れてみてください。



問い合わせ

〒739-10605

広島県大竹市立戸1丁目6-11

大竹市教育委員会生涯学習課

戦後60周年平和祈念事業実行委員会

☎ 0827-5315800



▲以前は、竹林等もなく盆地が見渡せたそう。

下旦祇園 玖珠町参上！



第2回祇園大祭

第2回玖珠祇園大祭が7月23日夜に玖珠町中心部で行われました。このお祭りは昨年、同町にある協心橋が架け替えられたのをきっかけに始められたもの。昨年出場の森、塚脇の両祇園に加え、今年は北山田、下旦の両祇園も参加。4つの山車が集合しました。

九重町からの参加は初めてということもあり、下旦祇園の山車（山鉾）がメイン会場となつた協心橋に登場したときには大きな拍手が沸いていました。下旦祇園にとつても長い歴史の中で信号のある道を通り初めで、人形などを高く飾り付けていたため、いつもは電線を避けながらの巡回も、この日は道路標識を避けながら。

下旦祇園は他の山車とは違ひ人形山。華やかな飾り付けが特徴となっており、囃子も優美なことから一番注目を浴びている様子で、小林公明玖珠町長も「華やかですね」と感心しながら見入っていました。祇園大祭では、それぞれの祇園の特色を生かした巡回のほか、もちろん庄内神樂のステージなどがあり、夜遅くまでにぎわっていました。



▲広報ここえ 1973年8月号の表紙

この祇園の歴史は古く、始まりは約100年前と言われます。昭和30年ごろまでは上町と下町とが山車をそれぞれ持ち、お互い競争することで大きな賑わいを見せていました。「当日は、早く田畠を済ませ浴衣に着替えて祇園へと声を掛け合っていました。今でもあの賑わいを思い出します。

7月23日・24日の2日間、豊後中村商店街を中心に野上祇園が行われました。

このお祭りは、1ヶ月ほど前から地元の保存会によつて準備が進められたもので、当日は山車の運行などが行われました。保存会代表の森昌哉さんは「時代が変わろうと、祭りに対する心は変わらない。みんなで楽しみたい」と話していました。

この祇園の歴史は古く、始まりは約100年前と言われます。昭和30年ごろまでは上町と下町とが山車をそれぞれ持ち、お互い競争することで大きな賑わいを見せていました。「当日は、早く田畠を済ませ浴衣に着替えて祇園へと声を掛け合っていました。今でもあの賑わいを思い出します。



着実に引き継がれる伝統



▲広報ここえ（1974年）より

さわやかな音にて 心洗われて

亀工房の二人は夫婦。
今年の夏は子ども5人と一緒に
九州ツアーブーをしました。◀に



NOTE →

ケルトとは アイルランドを中心とし、イギリスなどに古くから伝えられる文化。

音楽は 国境、人種、 宗教を超えて 世界が 一つになれる



南アフリカ・レインボースターズコンサート



亀工房は1993年に結成以来、日本全国で演奏活動を展開しており、九重町でのコンサートは3年ぶり2回目。主催は、郡内に音楽などの文化を届ける活動を展開している「スクランブル90」で、会員の一人が中心となり招へいしたもの。

この日もアメリカやイングランドに古くから伝わる曲などを中心に、オリジナル曲などを織り交ぜながら演奏。亀工房は、「心安らぐ音」をキーワードに、2つの生楽器の音色を大事にした精密なアレンジが持ち味。芳醇で澄んだ音が会場を包んでいました。観客の一人は「さわやかな風が体内に吹いたようで、心が洗われた」と話していました。

ハニマー・ダルシマーとアコースティック・ギターのデュオ・バンド「亀工房」のコンサートが8月5日に隣保館で行なわれ、約40人が集まりました。

ハニマー・ダルシマーは、台形の胴に数十本の弦を張り、木のステッICKでたたく楽器。ケルト音楽(→ NOTE)に良く使われ、中近東の楽器サントゥールがルーツで、東洋的な美しい響きが印象的。ケルト民族の移住に伴い、現在ではアメリカでも盛んに使われるものの、日本では未だ珍しい存在の楽器です。

亀工房は1993年に結成以来、日本全国で演奏活動を展開しており、九重町でのコンサートは3年ぶり2回目。主催は、郡内に音楽などの文化を届ける活動を展開している「スクランブル90」で、会員の一人が中心となり招へいしたもの。

このうち7月19日の午前中は森高校で全校生徒を前にコンサート。その後の交流会で、同校書道部は、大きな紙に「一期一会」や「道」、会」や「花火」や「竹林」、「忍者」「ドラえもん」など書かれた5作品を、美術部は「花火」や「竹林」、「忍者」「ドラえもん」など制作、レインボースターズのメンバーにプレゼントしました。「ドラえもん」は南アフリカでもおなじみらしく、「レインボースターズメンバーからは、日

南アフリカでは1993年にアパルトヘイト(人種隔離政策)が終わりましたが、未だ人種差別の壁は高く、完全撤廃には至つていません。同国では、差別のない民主国家をめざし、虹のようにあらゆる色の肌の民族が調和して生きる社会をめざした国づくりがすすめられています。

「南アフリカは人種のつぼで世界の縮図。世界中の人々が仲良くできるようについて願いをコンサートには込めています」と河野康弘さんは話していました。



本語で「かわいい」と歓声があがつてきました。また、ESS部員が英語で「日本の第一印象」などの質問をする場面もありました。

同グループは現地の音楽コンテストで選ばれた子ども達で結成。その人種は白人、黒人、カラード(南アフリカでは混血)と多岐に渡っており、国際色豊かな歌や踊り、演奏を通じて平和を訴えています。

ミュージシャンの河野康弘さん(地球ハーモニー代表)が1993年から始めた「アジア・アフリカに使わなくなつたピアノを贈る運動」をきっかけに、1998年、このコンサートがスタート。8回目となつた今年も、11歳から20歳までの9人のメンバーと河野さんなどのスタッフで全国8ヶ所を約1ヶ月間かけツアー。九重町には7月17日から20日まで滞在し、コンサートだけでなく、6家族がホームステイで受け入れるなどの交流を行いました。

ボーカリストの中で、レインボースターズを派出しツアーリーにも同行している亨リー・トーマスさんはメッセージを発表。「今回のツアーのテーマはセレブレーション(祝福)。お互い違う文化・言葉・外観、そして友情・善い心をたえよう」と訴えました。このほか町内では7月17日にビックシーダ(湯坪)でもコンサートが行われ、その際の収益金は7月10日の集中豪雨による被災者に寄付されました。